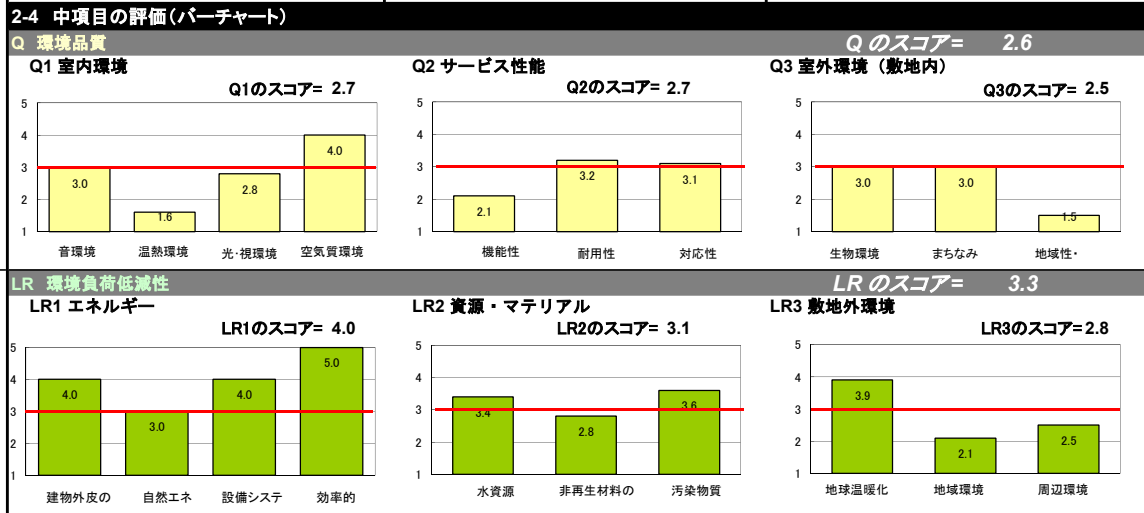
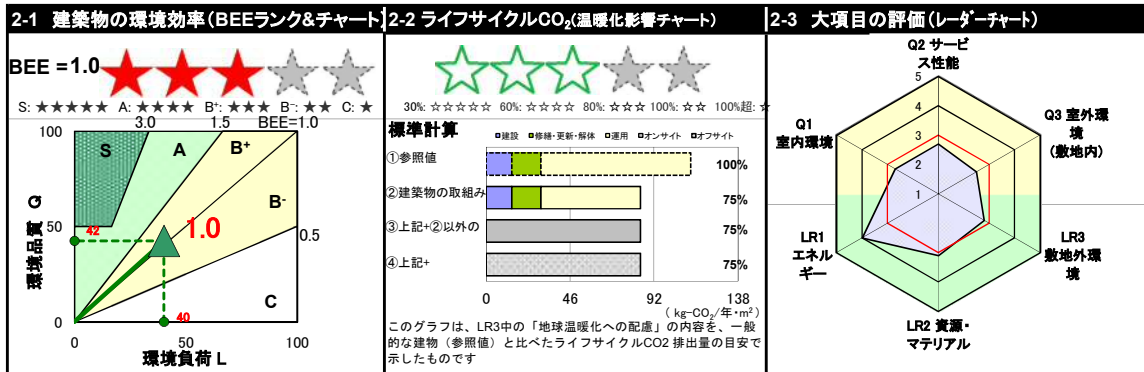


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社豊田自動織機 長草工場	階数	地上3F
建設地	愛知県大府市	構造	S造
用途地域	工業地域、第1種住居地域、法22条	平均居住人員	120 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2017年1月11日
敷地面積	7,832 m ²	作成者	伊藤みゆき
建築面積	564 m ²	確認日	2017年2月14日
延床面積	2,087 m ²	確認者	伊藤みゆき



3 重点項目					
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化				
3.9	3.0				
②資源の有効活用	④地域材の活用				
2.9	1.0				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>16.9 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>		外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	16.9 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	16.9 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>					

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				3.0	0.15			3.0
1.2 遮音				-	-			-
1 開口部遮音性能				-	-			-
2 界壁遮音性能				-	-			-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-			-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-			-
1.3 吸音				3.0	1.00			-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				1.6	0.35			1.6
1 室温				2.2	0.50			-
2 外皮性能				3.0	0.38			-
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25			-
2.2 湿度制御				1.0	0.38			-
2.3 空調方式				1.0	0.20			-
				1.0	0.30			-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				2.8	0.25			2.8
1 昼光率				3.0	0.30			-
2 方位別開口				3.0	0.60			-
3 昼光利用設備				3.0	0.40			-
3.2 グレア対策				3.0	0.30			-
1 昼光制御				3.0	1.00			-
3.3 照度				2.0	0.15			-
3.4 照明制御				3.0	0.25			-
4 空気環境								
4.1 発生源対策				4.0	0.25			4.0
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆のみ使用、また低VOCの建築材料を全面的に使用	5.0	0.63			-
				5.0	1.00			-
4.2 換気				2.5	0.38			-
1 換気量				1.0	0.50			-
2 自然換気性能				-	-			-
3 取り入れ外気への配慮			空気取り入れ口は、汚染源がない方向に設置	4.0	0.50			-
4.3 運用管理				-	-			-
1 CO ₂ の監視				-	-			-
2 喫煙の制御				-	-			-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	0.30			2.7
1 広さ・収納性				2.1	0.40			2.1
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.40			-
3 バリアフリー計画				1.0	0.50			-
1.2 心理性・快適性				-	-			-
1 広さ感・景観			事務室の天井高2.8m 事務室のすべての外壁面に窓を設置	2.3	0.30			-
2 リフレッシュスペース				4.0	0.33			-
3 内装計画				2.0	0.33			-
1.3 維持管理				1.0	0.33			-
1 維持管理に配慮した設計			高耐久性床材の採用、ローメンテナンスの床材を採用	3.5	0.30			-
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50			-
				3.0	0.50			-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.2	0.31			3.2
1 耐震性			建築基準法の25%割増の耐震性を確保	3.8	0.48			-
2 免震・制振性能				4.0	0.80			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20			-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33			-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		3.0	0.36			-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.36			-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.15			-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.12			-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	-			-
2.4 信頼性				2.2	0.19			-
1 空調・換気設備				1.0	0.20			-
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			-
3 電気設備		②		3.0	0.20			-
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20			-
5 通信・情報設備				3.0	0.20			-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.1	0.29			3.1
1 階高のゆとり			階高3.95m	4.0	0.31			-
2 空間の形状・自由さ				4.0	1.00			-
3.2 荷重のゆとり				-	-			-
3.3 設備の更新性				3.0	0.31			-
1 空調配管の更新性				2.5	0.38			-
2 給排水管の更新性		②		1.0	0.17			-
3 電気配線の更新性				1.0	0.17			-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-
5 設備機器の更新性			仮設スペースが確保できる。更新・修繕時に建物機能を維持でき	3.0	0.11			-
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.22			-
				3.0	0.22			-

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
						Q3 室外環境(敷地内)				
1 生物環境の保全と創出	独自③	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	1.5	0.30	-	-	-	-	-	-	1.5
3.2 敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-	-	-	-	-	2.0
		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー										
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.6	4.0	0.30	-	-	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			4.0	0.30	-	-	-	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m =0.7	4.0	1.00	-	-	-	-	-	4.0
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用										
集合住宅以外の評価			5.0	0.20	-	-	-	-	-	5.0
4.1 モニタリング			5.0	1.00	-	-	-	-	-	5.0
4.2 運用管理体制			5.0	0.50	-	-	-	-	-	5.0
集合住宅の評価			5.0	0.50	-	-	-	-	-	5.0
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル										
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水			3.4	0.15	-	-	-	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		節水コマ、擬音装置を設置	4.0	0.40	-	-	-	-	-	4.0
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.60	-	-	-	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	-	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	-	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減			2.8	0.63	-	-	-	-	-	2.8
2.2 既存建築躯体等の継続使用			2.0	0.07	-	-	-	-	-	2.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	3.0	0.24	-	-	-	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	0.20	-	-	-	-	-	3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-	-	-	-	2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.24	-	-	-	-	-	3.0
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆建材又は低VOCの建材を使用	5.0	0.32	-	-	-	-	-	5.0
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	-	-	-	3.0
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	-	-	-	3.0
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-	-	-	3.0
LR3 敷地外環境										
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:75%	3.9	0.33	-	-	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.1	0.33	-	-	-	-	-	2.1
2.1 大気汚染防止			-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.67	-	-	-	-	-	2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.33	-	-	-	-	-	2.3
1 雨水排水負荷低減	独自		-	-	-	-	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制	独自		3.0	0.33	-	-	-	-	-	3.0
3 交通負荷抑制			1.0	0.33	-	-	-	-	-	1.0
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	-	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			2.5	0.33	-	-	-	-	-	2.5
1 騒音	独自		-	-	-	-	-	-	-	-
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-	-	-	-	3.0
1 風害の抑制			-	-	-	-	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	1.00	-	-	-	-	-	3.0
3.3 光害の抑制			1.6	0.33	-	-	-	-	-	1.6
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	-	-	-	1.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-	-	3.0

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

株式会社豊田自動織機 長草工場(仮)警備・製造ハウス新築

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:16.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 外皮性能の向上による空調負荷低減、緑地によるヒートアイランドの抑制など、環境負荷の低減に努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物外皮には、十分な断熱材を施し、断熱性を高めると共に日射取得熱を削減する計画とした。また、内装材には、F☆☆☆☆又は、低VOCの建材を採用し、化学物質の汚染の防止に努めた。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事務室の天井高さを2.8mとし、可能な限り窓を設置し、明るく開放的な執務スペースとした。また、事務室には、OAフロアを設置し、レイアウト変更にフレキシブルに対応できるように配慮した。 建築基準法の25%割増の耐震性を確保し、建物の信頼性の向上を図った。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地の生物環境に配慮した緑地計画を行っている。また、中高木の保存に配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁・屋根及び外気に接する1階の床には、十分な断熱を施工すると共に、主要な室にはLow-E複層ガラスを採用し、断熱性能を高めた。また、ブラインドを設置して日射取得熱を低減することにより、空調負荷を軽減する計画とした。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水コマ及び擬音装置を設置し、節水に努める計画とした。また、ODP=0の冷媒を使用し、地球温暖化の防止に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外皮の断熱性の向上、日射取得熱の抑制により、ライフサイクルCO2の排出量の削減に努める計画とした。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。